

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

永田地域ケアプラザ

■ 事業報告

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

地域の現状と課題について

南区は高齢化率の高い地域であり、北永田地区、永田みなみ台地区、南永田山王台地区も高齢者の多い地域になる。地域のほとんどが住宅地であり、長く定住されている方が多く独り暮らし高齢者が増えているのが現状である。各地区ともに担い手不足が深刻化し、新たな担い手の確保が急務となっている。また、外国人居住者も増えてきており、生活環境が変化してきている。

[北永田地区]

3地区の中で人口が最も多く高齢者も多いが若い世代も多いため他の地区に比べ高齢化率は低い。地域活動が活発な地域で、集いの場を民間企業と協力して設置するなど地域の問題に目を向けた活動を展開している。

[永田みなみ台地区]

南永田団地は40年が経過し、居住者の高齢化や独り暮らしとなるケースが増えている。高齢化率は30%を超える地域であるため高齢者支援が必要であり、見守り隊や高齢者サポート委員会などの住民組織が運営されている。また、地域の活性化のための検討委員会も発足している。従前より団地には分譲（一街区）と賃貸（二街区、三街区）があり、情報の取得や支援の方法を変える必要がある。

[南永田山王台地区]

各団体の活動が活発に行われている地域になる。民生委員と友愛活動員などによる定期的な会合があり、見守り活動が継続して展開されている。高齢者サロンを展開するにあたり、南永田地域と山王台地域の環境による問題（山坂）で統一したサロンが運営できない状況にあるものの、町内会単位で必要に応じて小規模の高齢者サロンを展開している。

(1) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

高齢者・障害・子ども等幅広い分野の相談について、地域の特徴やニーズを把握したうえで情報提供を行うとともに、関係機関を紹介、連携して問題解決に取り組んだ。ケアプラザでの相談だけでなく、自主事業・会議、地域の会合等さまざまな場面で相談を受け付け、状況に応じた情報提供を行い、地域にケアプラザの機能を知ってもらうよう努めた。

(2) 各事業の連携

毎月第3金曜日に開催している正職員による全体会議で、各部門の課題を共有し解決に努めた。また、各部門間の会議も定例で開催し、ケアプラザにおける業務の共有化を図った。

認知症サポーター養成講座をはじめ、地域のイベント等では包括支援センターと地域活動交流、生活支援コーディネーターで連携し活動を支援した。

区内の他地域ケアプラザを含めて、地域内で連携が必要な事業所とは、メーリングリスト等を活用し、必要な情報の共有化や意見交換を効率的に行えるようにした。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

地域特性を判断したうえで、適切な人員配置を行い、地域と対話しより良いケアプラザ運営が進めていけるように努めた。集められた情報は、職員全体会議、包括ミーティング、地域交流会議、居宅会議で共有し課題解決を図った。

研修計画に従い、内部・外部研修に参加するとともに、各種連絡会に参加し、常に最新の情報を習得できるようにした。

- ・ 内部研修（個人情報保護、非常災害時対応、認知症対応、介護予防、感染症対策
身体拘束廃止、リスクマネジメント、虐待防止、法令遵守等）

- ・ 外部研修（市社協・県社協主催研修会、高齢福祉部会主催研修、行政主催研修等）

公正中立性の確保についての基本的な考え方として、包括支援センターが要介護者等から相談を受け、居宅介護支援事業所を選択するにあたり、適切な情報提供を行い地域の居宅介護支援事業所を当事者自身で選んでいただけるよう支援した。具体的には、横浜市が監修している『ハートページ』の情報をもとに情報提供を行い、多様な事業所から選んでいただく体制を整えた。また、選択された事業所をカウントすることにより、大幅な偏りが発生しないようにチェックした。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

地域の福祉保健団体等と連携し、情報共有や地域のニーズを把握し、事業を共催するなどネットワークづくりに取り組んだ。また、区役所や社会福祉協議会との定例会議や民児協や連合町内会を通じて情報を共有した。

『永田支えあい祭り』を関係機関と連携して開催し、『顔の見える関係づくり』を構築した。各団体の活動や情報の共有を図り、地域課題解決の一助となるようなネットワークを構築した。支えあい祭りの運営は地域を主体とした実行委員会を設置して行うことで、地域と繋がりのある関係づくりを推進した。

南中学校地域防災拠点の運営委員会に運営委員として参加し、福祉避難所としての役割を担えるよう周知した。

(5) 区行政との協働

地域の方が安心してその人らしい生活を継続させるために地域福祉保健計画・地区別計画、包括的継続的ケアマネジメント業務を南区役所、南区社会福祉協議会と協働して推進した。地区懇談会や地区社会福祉協議会の総会などに積極的に参加し情報を収集し、永田3地区の地域特性などを踏まえ課題を解決けるよう支援した。

包括的継続的ケアマネジメント業務の推進では、包括支援センターが中心となり地域ケア会議や協議体を開催し、地域での問題点を明らかにして必要な地域ニーズを行政・地域と共有して、地域で課題を解決出来る体制づくりを構築した。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

高齢者を対象としたミニデイサービス「なごみ」を運営しているボランティアグループ「なごみ」を支援し、介護予防を推進した。障害を持つ方たちの居場所「カフェスマイル」については、地域のニーズを踏まえ、年2回開催した。

未就園児の親子を対象とした子育てサロン「たんぽぽ」を定期的で開催した。また、年間を通して、子育て支援拠点「はぐはぐの樹」や永田保育園との共催事業を展開し、子育て支援に取り組んだ。前年度実施した子育て世代の親を対象にした連続講座「永田 de はぐくむ わくわく教室」は、子育て世代の仲間作りの機会や地域とのつながり、担い手の育成を目標に実施し、一定の成果が得られたことから、継続開催した。加えて、地域で立ち上がった子育てサロン（ぽてと、つくしんぼ、まんま）の後方支援を行った。ケアプラザと関わりの薄い地域住民を対象とした趣味講座『お楽しみ講座』を開催し、ケアプラザの周知と地域の担い手の発掘等を行った。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

地域で活動している福祉保健活動団体に対して積極的にケアプラザの利用をPRし、安定的に活動を支援していけるよう部屋の貸出など支援を行った。貸館の利用状況は、窓口で確認できるほかホームページ上でも公開し、利用しやすい環境を整えた。

ケアプラザに訪れる機会のない地域住民を対象とした『お楽しみ講座』を年4回開催した。開催後は、自主グループ化を目指しボランティア活動を行う福祉保健活動団体へと発展できるよう支援した。

永田支えあい祭りでは貸館利用団体にも参加していただき、互いの活動を知る機会を設け新たな活動のきっかけ作りを支援した。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

南区社会福祉協議会ボランティアセンターと連携を図りながら、ボランティアの育成と同時に、地域の中で負担のない見守り活動や、個別支援を支える地域ボランティア育成を行った。具体的には、ケアプラザで行う事業を継続して行うために、「永田通信」等の広報誌にボランティア募集の項目を載せ、新たな人材の発掘を行った。また、「ちょこっとボランティア」は地域のニーズに応えられるようボランティア募集を継続して行い、登録人数を増やした。登録後のボランティアには、定期的な会合の開催をして継続した活動を支援した。ボランティア交流会を年2回開催し、日頃のボランティア活動に対しての労いと意見交換を行い今後の活動を支援した。

よこはまシニアボランティアポイント事業を活用し、高齢者のボランティア活動を支援するため、登録研修会を行った。子どもの見守りボランティア講座を年1回開催し、人材の発掘と育成をおこない、地域の担い手として活躍できるよう支援した。

ボランティアの登録人数を増やすために、地域の会合やお祭りに参加しボランティアの募集を行うなど、地域の方々へ継続したPR活動を行った。登録後のボランティアに対しては、定期的な会合の開催と能力のレベルアップを目的とした研修会を開催した。昨年度実施した"子育て世代の親を対象にした連続講座「永田 de はぐくむ わくわく教室」"は、参加者が担い手となり、新たな活動へと繋がっていったことから、継続的に支援し、担い手の育成と発掘に努めた。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

地域で開催されている高齢者や子育てのサロン、高齢者給食会、行事、民生委員児童委員協議会などに積極的に参加し、福祉保健活動に関する情報収集を行い地域課題や活動の支援などを行った。

広報誌「永田通信」や「月ポスター」を定期的に配布し、情報が地域に十分届くように努めた。また、「永田通信ブログ版」は、年々アクセス数が向上し、PRの効果が高まっていることから、引き続き事業の情報や地域の活動などを掲載し、幅広く情報発信することに努めた。地域アセスメントシートを継続して作成し、地域のニーズに応えるための情報として役立てるため、適宜更新を行った。永田支えあい祭り等において地域で活動している団体の紹介を行い、地域とつながるきっかけとなるよう積極的に支援した。企画・運営については、地域住民から実行委員を選出し、地域主体の行事として行えるように支援した。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

住み慣れた地域の中でいつまでも暮らし続けることを目標として、主に高齢者を対象とした地域の支え合いや健康づくり、介護予防の支援、生活支援サービスの充実に取り組んだ。また、南区役所や南区社会福祉協議会など関係機関と連携し、地域課題の解決に取り組んだ。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

民児協や地区社会福祉協議会の会議、福祉保健団体の会合、地域のサロンや老人会などに参加し、地域の状況や課題を把握した。また、地域活動交流や包括支援センター、居宅部門などが把握している生活支援につながる情報を整理し、地域へ情報提供できる体制を整えた。各地区の課題解決のために、地域住民と一緒に話し合いができる場として協議体を開催した。また、南区役所や第一層の生活支援コーディネーターと情報を共有し、今後の取り組みについて協働した。

(3) 連携・協議の場

既存の活動団体について調査し、生活支援や介護予防、社会参加にかかわる活動・サービスを調べ、継続や発展させるために具体的な企画立案及び取組を行うために協議体を開催した。また、協議体の開催という形にこだわらず、様々なネットワークや会議を利用し、生活支援について協議した。

地域における生活支援に係る活動の立ち上げには積極的に介入し、活動が発展していけるよう継続的に働きかけを行った。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

永田3地区の地域資源を把握し、福祉保健活動団体の情報をデータベースに整理した。民間企業やNPO法人など様々な分野の活動と連携し、新たな取り組みや支援のシステムを構築した。また、介護や医療の事業者と町内会や自治会、ボランティア団体など生活を支える多様な主体を結び付け「顔の見える関係」を構築し、地域包括ケアシステムを支援した。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

①地域におけるネットワークの構築

地域の会合への参加や区役所の支援チーム等の会議を通じて、地域包括ケアシステムの構築に向けた情報を共有し、地域でできることを模索し、関係機関とのネットワークの構築を図った。

地域ケア会議や協議体の充実を図り、福祉保健団体のほか、民間企業やNPO法人など幅広い関係者の参加を求め、ネットワークを強化した。

②実態把握

区役所、関係機関、民生委員、地域住民等からの情報収集や地域の会合へ積極的に参加することにより地域の高齢者の実態を把握した。また、永田地域ケアプラザまで来られない地域住民を対象に地域の町内会館を中心にした『出張相談会』を各地域で開催した。開催にあたっては、他講座と同時に開催し、多くの方に足を運んでいただけるように実施した。

相談から地域の傾向について、地域の傾向や民生委員との情報交換を密に行っていくことで対象者の把握を継続した。

③総合相談支援

地域の身近な相談窓口としての役割を果たすため、福祉・保健に関わる様々な分野の情報収集に努めるとともに、各関係機関と連携した。一般高齢者、要介護（支援）者、家族、医療関係者、介護事業者などの異なる対象者に対して、三職種（主任ケアマネジャー、看護師、社会福祉士）それぞれの専門性を生かした支援を展開した。相談に対しては、相談者のニーズに応じて、訪問など迅速に対応し、的確な状況把握をしたうえで、サービスの提案や情報提供、関係機関への繋ぎを行った。また、相談内容の緊急性（虐待など）を考慮に入れて、必要に応じて区役所と連携しながら支援計画を立てて介入を行った。

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

地域住民や福祉関係者を対象として、成年後見制度や相続・遺言、消費者被害などに関する勉強会や相談会を開催し、制度や法律の普及啓発に努めた。

認知症などにより契約行為や金銭管理が困難な利用者に対して、区役所や社会福祉協議会と連携・検討しながら、必要に応じて成年後見制度や日常生活自立支援事業の紹介を行った。また、成年後見制度の利用を望まれる場合や、制度の利用が必要であると判断した場合は必要に応じた申立ての支援を行った。

② 高齢者虐待への対応

高齢者虐待が発見された場合には、直ちに区役所に報告を行うとともに、関係機関と連携をとり、チームで被虐待高齢者や養護者を支援した。地域住民等に対し高齢者虐待防止に関する普及啓発や「介護者サロン」を年6回開催し、男性介護者の孤立や介護情報を共有の場として活用しつつ、虐待を未然に防ぎ、虐待が起きた場合にも早期発見が出来る仕組み作りに努めた。

③ 認知症

認知症の方や家族が地域で安心して地域で生活出来るように、環境づくりも含めた専門的支援を行った。具体的には『認知症サポーター養成講座』を認知症キャラバンメイト、社会福祉協議会とともに開催し、地域住民や福祉関係者に対し、認知症についての正しい知識や認知症高齢者への対応についての普及活動を行った。また、近隣の小学校や中学校、老人会等に対して、その年代に応じた認知症教育を実践し、地域で認知症を支える環境を整える支援を行った。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

① 地域住民、関係機関等との連携推進支援

地域の会合やイベントに参加し、出張相談会や出前講座を通して地域包括支援センターの役割や介護保険制度等について周知した。

インフォーマルサービスについて、その活動内容や特徴、連絡先など情報を整理して、地域の方やケアマネジャー等に情報を提供した。

民生委員とケアマネジャーの交流会を開催し、共通の課題についての話し合いや学習の機会を設け、『顔の見える関係』を構築した。

認知症啓発事業を継続し、地域が認知症に対する理解を深めることが出来るよう啓発を行った。また、近隣の小学校や中学校、老人会に対しても地域・行政と協働して認知症啓発を行った。

②医療・介護の連携推進支援

医療関係者と連携が図れ、利用者を中心とした支援が円滑に行われるように関係を構築した。ケアマネ勉強会『やまさかネット』をケアプラザの施設協力医と協働し開催した。永田地区を担当しているケアマネジャーに定期的な勉強会を提供することで専門的知識の向上やケアマネジメント力の向上を図った。

③ケアマネジャー支援

地域のケアマネジャーからの相談を受け付け、積極的に支援した。また支援困難事例を抱えたケアマネジャーに対し多職種、多機関と連携を図り、問題解決に向け支援した。ケアマネ連絡会等で地域包括支援センターが個々のケアマネジャーの相談窓口であることを案内し、随時相談を受けた。

ケアマネジメントに関する問題点等の解決を目的に勉強会を行い、それぞれが抱える困難ケース等の支援を行政機関と共に継続して行った。また行政を通じた情報収集等を行う窓口的役割を担った。現代のニーズに即した情報を収集し、勉強会や研修会、ケア検討会などをケアマネジャーだけでなく多機関を加え地域ケアマネジメントの促進を図った。また、新任ケアマネジャーに対する実習の受け入れを行い、状況に合わせ実習計画を作成し、問題点を解消できるよう支援した。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

地域包括支援センターを中心として、地域ケア会議や勉強会を開催し、永田地区の保健・福祉・医療の専門職相互の連携を図り、さらに民児協や地区社会福祉協議会、ボランティア等のインフォーマルな活動を含めた地域の様々な資源を活用し、高齢者が継続的に地域で生活を送れるように支援した。

また、民生委員とケアマネジャーの交流会を実施し、インフォーマルなサービスを含め介護、医療、地域が一体となって地域を支援した。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

生活圏域で行われている地域情報を得ながら、インフォーマルサービスも含めたサービスを活用し、自宅での生活が継続できるよう最新情報を収集していき、ケアマネジメントを行った。

マニュアルに沿ったケアマネジメント業務を行った。利用者の状況によりケアプランを変更しながら適切に支援した。3職種が定期的に話し合いをもち、支援困難な状況にある利用者について事前に解決した。

関連機関（区役所・民生委員・サービス事業者等）と協力し、利用者が自立した生活を送れるよう支援した。

居宅介護支援事業者へ業務委託を行い利用者のケアマネジメントが滞りなく行えるように3職種で情報を共有した。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

地域住民が参加しやすい場所を選定して開催できるよう町内会館等を会場に選定し、介護予防サポーターと協力しながら啓発活動を行った。

[口腔ケア講座、食事講座、介護予防教室、医学講座、お元気で21健診、人材育成(地域の実情に合わせて企画、介護予防活動の情報交換会や研修など)、元気づくりステーションの活動継続支援、地域住民主催の介護予防に準ずる教室の活動支援等]

身近な場所で気軽に参加できる活動を増やすことを目標に、既存の永田歌声広場、体操教室や脳トレウォーキングの活動継続支援や、介護予防教室の新規立ち上げ支援(山王台)を重点に実施した。医学講座を北永田地区社協と協働で開催した。リハビリ職からの助言をもとに介護予防に関する意識付けを歌声広場に継続実施した。

5 その他

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

指定管理者として、公の施設を適切に管理し地域ケアプラザが安全に安心して利用できる施設として、地域住民の財産となるように努めた。設備等の故障により、利用者に不便をかけることのないよう今後も維持管理を適切に行った。また、経年劣化を考慮し、区と連携を図りながら適切に対応した。

<開館時間>

年末年始(12月29日～1月3日)を除く午前8時30分～午後9時(第三月曜・日曜・祝日は午後5時まで)

<建物・設備の保守点検、清掃作業>

建築物・設備保守点検業務、清掃業務(定期清掃・害虫防除)の委託を行い適切な維持管理に努めた。

<警備業務>

機械警備業務の委託を行い適切な維持管理に努めた。

(2) 効率的な運営への取組について

設備管理における委託業務者を選出するにあたっては、設備管理についての質の確保と、経費削減を同時に行った。

(3) 苦情受付体制について

「横浜市内所在施設の苦情解決に関する規定」に則り対応した。

＜苦情への対応手順＞

苦情の申し出先がわかるように、施設内に苦情受付について受付担当者、解決責任者、第三者委員名等を記載し掲示した。

＜苦情解決の仕組みに対する市民への周知方法＞

- ① 苦情解決窓口及び担当者、責任者の氏名、第三者委員氏名、連絡先の掲示
- ② 提案や意見を募るためにご意見箱を設置

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

防災に関しては「永田地域ケアプラザ災害時対応マニュアル」「消防計画」を策定している。年数回の避難誘導訓練・初期消火訓練を実施し、防災意識の向上に努めた。南区との協定による福祉避難所として、地域防災拠点で避難生活を送ることが困難な方々を受け入れることができるように備えた。また、南中地域防災拠点の運営委員として訓練や会議に参加し、福祉避難所の周知を徹底した。

緊急時の対応については、初期対応から迅速かつ適切な行動が出来るように、緊急時対応マニュアルを策定し、職員会議や研修時に確認するとともに、防災訓練時に緊急時の対応についても訓練を行った。

南区との協定による福祉避難所として、地域防災拠点で避難生活を送ることが困難な要援護者を迅速に受け入れられるよう対応した。

(5) 事故防止への取組について

事故防止策では、「横浜市地域ケアプラザ・事故防止の手引き」を職員がいつでも閲覧できる場所に置き意識向上に努めた。また、「手引き」をテキストとして内部研修で活用し、事故の予防に努め、事故発生時には事故対応マニュアルに則り対応を行えるように備えた。

「防げる事故は起こさない」「事故は未然に防ぐ」を目的とし「ヒヤリハット報告書」を活用することでリスク管理を行いその防止に努めた。事故発生時は、初動対応を正確かつ迅速に行い、関係機関に連絡、報告を義務づけ実施した。また、再発防止の為に「報告書」の作成を行い、職員全員に回覧した。通所介護では、事故防止の意識が向上するように月例の会議や毎日のミーティングで事故事例の検証や事故予防の啓発を行った。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

法人の「個人情報保護に関する基本方針」及び「個人情報管理規定」に基づき個人情報の管理保護に努めた。個人情報のFAX送信時、郵送時には必ず二人体制でダブルチェックを行い、誤送付防止に努めた。職員全体会議時に個人情報保護の取り扱いについての研修を行った。USBメモリは原則使用せず、特別に必要と認められる場合を除き（出前講座など）USBメモリの持ち出しをしないように徹底した。

(7) 情報公開への取組について

「横浜市永田地域ケアプラザ情報公開規程」に則り対応できるように備えた。情報公開へは施設内受付とホームページ上で積極的に開示した。具体的には、事業計画・報告、収支状況、利用者アンケートの結果、苦情対応結果、第三者評価結果などを誰もが閲覧できるようにした。

ホームページ等の公開により、施設のイベント・教室開催情報や地域情報等を地域に向けて配信できるような情報公開を行った。

(8) 人権啓発への取組について

横浜市の人権尊重のための指針「一人ひとりの市民が互いに人権を尊重しあい、ともに生きる社会」の実現に向けて、職員はもちろんのこと、地域の中でも意識が高まるような勉強会や研修の実施を様々な観点から実施した。

(9) 環境等への配慮及び取組について

省エネルギー対策として、ゴミの減量化など良好な環境を維持するために、節水や節電を行った。また、コピー用紙の裏面使用の励行やゴミの分別収集など、職員一人一人が「限りある資源を大切にする」という意識を持つようにした。

電力消費がピークになる夏季は、緑のカーテンやすだれを用いて室内温度の上昇を緩和し、軽装を心がけ、扇風機やうちわを使用し、電源などはこまめに切るなど節電に努めた。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

地域包括支援センター職員が中心となり、総合事業対象者や要支援の認定を受けた利用者のニーズを把握し、介護予防サービスを適切に受けられるように計画策定及び支援を行った。地域包括支援センターが担当している利用者については、居宅介護支援事業と協力し3職種の仕事に影響が出ないように調整しながら対応した。

《目標に対する成果等》

要支援1・2、総合事業対象者の利用者は毎月220件前後の担当を行っている。このうち70%程度を居宅介護支援事業所に委託した。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 無し（通常のサービス地域をこえる地域に訪問・出張する場合の交通費は実費）

《その他（特徴的な取組、PR等）》

予防のケアプランについて、地域ケアプラザの配置人員に対応可能な件数が決まっているため、それを超えた一部を外部に委託する場合は、対象の事業所が一定の条件を満たしているか必ず確認した。介護度が変化した際には、利用者の負担がないようなサービスの継続性を重視した。ケアマネジメントについてはできるだけ利用者が分かりやすく、実行が可能な目標を立てられるようにした。また委託先の居宅支援事業とも利用者の介護予防プランを通して継続した支援関係を維持した。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
217	225	233	232	226	218
10月	11月	12月	1月	2月	3月
235	237	235	228	236	236

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者 1名（常勤兼務）
 介護支援専門員 4名（常勤兼務1名）

《目標に対する成果等》

ケアプラン作成にあたっては、利用者の身体の状態や生活環境を考慮し、介護保険制度の理念でもある自立を支援した。また、ケアマネジメントの展開が難しい方（高齢者虐待など）は、地域包括支援センター職員と相談し関係機関と協働して支援した。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

●無し

《その他（特徴的な取組、PR等）》

高齢者への虐待など、ケアマネジメントをすぐに展開することが難しい事例には、まず地域包括支援センターと協働し、必要に応じた関係機関へと働きかけ、速やかに状況に応じた支援を展開した。

地域包括支援センターが開催するケアマネジャー向けの研修会等や内部・外部の研修会に積極的に参加し、ケアマネジメントの資質向上に努めた。

介護保険制度が改定する時期には、積極的に情報を収集し適正な運用を実施する。事業所として南区事業者連絡会『あったかネット南』に協力するとともに、介護支援専門員の横のつながりを大切にしお互いの研鑽を図った。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
59.0	59.0	65.0	65.5	68.5	69.5
10月	11月	12月	1月	2月	3月
72.5	74.0	69.5	68.0	70.0	72.0

● 通所介護・認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 相談援助（生活指導）等
- 日常生活動作訓練（機能訓練）等
- 健康状態の確認
- 入浴・排泄・食事・送迎等の各サービス

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分

（要介護1）	692円
（要介護2）	816円
（要介護3）	947円
（要介護4）	1,076円
（要介護5）	1,205円

- 入浴介助加算 54円
- サービス提供体制加算Ⅰ 2 13円
- 食費負担 750円

※その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載をしてください。

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 9:30 ~ 16:30 （半角で入力 例 9:00~15:00）

《職員体制》

管理者	1名（常勤兼務）
生活相談員	3名（常勤兼務3名）
看護職員	5名（非常勤兼務5名）
機能回復訓練指導員	5名（非常勤兼務5名）
介護職員	17名（常勤兼務3名、非常勤兼務14名）
調理職員	4名
運転手	6名
事務員	1名（常勤兼務1名）

《目標に対する成果等》

通所介護では、『地域に必要とされるデイサービス』を目標に掲げ、安全で安心して利用できるデイサービスを提供した。利用者のニーズを十分に把握し、利用者一人一人に寄り添った支援を実践した。またサービスの質を向上させるため、定期的な職員研修を実施した。

安定した運営のために、新規利用者の継続的な確保、稼働率の向上を目指した。そのための方策として、積極的にデイサービスの宣伝を行い、既存の関係あるケアマネジャーのみならず、広域の居宅介護支援事業所や地域住民への周知に努め、信頼関係の構築に努め、利用者獲得に繋げた。また、利用者に対して利用回数の増加や臨時利用などを提案する。キャンセルについてはその理由を分析し、利用者満足度の向上に努めた。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

利用者ごとの利用状況等の報告をきめ細やかにを行い、家族、担当ケアマネジャーとの信頼関係を構築した。

新規申込から1週間以内にサービス開始ができるように努めた。

食事は日々の利用を考慮して毎日違うメニューを提供し、季節に合った食材を適時適温で美味しく食べていただくよう提供した。年1回~2回利用者嗜好調査を実施し

て、メニューに反映した。また、毎朝送迎時に車の中で当日のメニューを発表し、嫌いなものや食べられないものを確認しきめ細やかに対応した。

レクリエーションについては、全員で行う機能訓練の体操（棒体操やリズム体操など）や週替わりのレクリエーションのほか、自分らしさを大切にして利用者が選んで行う趣味の活動（習字、大正琴など）やゲーム（囲碁、将棋、オセロ、麻雀など）も提供した。また、年間を通じて季節の行事（運動会、夏祭り、敬老会など）を実施し、季節を感じてもらうサービスを提供した。

デイサービスでは多くのボランティアに来ていただけるよう活動を用意した。その人に合った活動してもらい、利用者もボランティアも楽しめる地域と繋がりのあるデイサービスを展開した。

《利用者実績（延べ人数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
682	740	728	707	726	669
10月	11月	12月	1月	2月	3月
717	723	713	635	638	736

● 介護予防通所介護・第1号通所事業・介護予防認知症対応型通所介護

《提供するサービス内容》

- 相談援助（生活指導）等
- 日常生活動作訓練（機能訓練）等
- 健康状態の確認
- 入浴・排泄・食事・送迎等の各サービス

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担
(要支援1) 1,766円
(要支援2) 3,872円
- サービス提供体制加算I2
(要支援1) 52円
(要支援2) 103円
- 食費負担 750円

※ その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載をしてください。

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 9:30 ~ 15:20 (半角で入力 例 9:00~15:00)

《職員体制》

管理者	1名(常勤兼務)
生活相談員	3名(常勤兼務3名)
看護職員	5名(非常勤兼務5名)
機能回復訓練指導員	5名(非常勤兼務5名)
介護職員	17名(常勤兼務3名、非常勤兼務14名)
調理職員	4名
運転手	6名
事務員	1名(常勤兼務1名)

《目標に対する成果等》

住み慣れた地域で暮らし続けることが出来るよう地域包括ケアシステムの一部を担うサービスを提供した。体操やレクリエーションを通じた機能訓練の充実や食事などの日常生活の支援を利用者の意向を踏まえ提供し、いつまでも健康で生活できるよう支援した。また、高齢者ボランティアを積極的に受け入れ、地域での社会参加の機会を提供した。

《その他(特徴的な取組、PR等)》

利用者ごとの利用状況等の報告をきめ細やかに言い、家族、担当ケアマネジャーとの信頼関係を構築した。

新規申込から1週間以内にサービス開始ができるように努めた。

食事は日々の利用を考慮して毎日違うメニューを提供し、季節に合った食材を適時適温で美味しく食べていただくよう提供した。年1回~2回利用者嗜好調査を実施して、メニューに反映した。また、毎朝送迎時に車の中で当日のメニューを発表し、嫌いなものや食べられないものを確認しきめ細やかに対応した。

レクリエーションについては、全員で行う機能訓練の体操(棒体操やリズム体操など)や週替わりのレクリエーションのほか、自分らしさを大切にして利用者が選んで行う趣味の活動(習字、大正琴など)やゲーム(囲碁、将棋、オセロ、麻雀など)も提供した。また、年間を通じて季節の行事(運動会、夏祭り、敬老会など)を実施し、季節を感じてもらえるサービスを提供した。

デイサービスでは多くのボランティアに来ていただけるよう活動を用意した。その人に合った活動してもらい、利用者もボランティアも楽しめるよう地域と繋がりのあるデイサービスを展開した。

《利用者実績（契約者数）》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
16	18	21	21	19	19
10月	11月	12月	1月	2月	3月
19	15	15	15	18	15

平成30年度 自主事業収支予算書

永田地域ケアプラザ

【生活支援体制整備事業】

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
地域の集いの場マップづくり	①地域住民	23,004	地活	0	0	0	0	23,004	
	②20名程度		包括						
	③0円		生活						
サロンづくりの支援	①地域住民	0	地活	0	0	0	0	0	
	②30名程度		包括						
	③0円		生活						
生活支援に関するボランティア講座	①地域住民	17,800	地活	0	0	0	0	17,800	
	②20名程度		包括						
	③0円		生活						
		40,804		40,804	0	0	0	0	40,804

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度「横浜市永田地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書（一般会計）＜地域活動交流＞

収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	15,511,251	0	15,511,251	15,511,251	0	横浜市より
利用料金収入	0	0	0	0	0	
指定管理料充当 事業	0	0	0	0	0	
自主事業収入	0	0	0	35,900	△ 35,900	参加費等
雑入	0	0	0	64,184	△ 64,184	
印刷代	0	0	0	22,700	△ 22,700	印刷代
自動販売機手数料	0	0	0	41,284	△ 41,284	自動販売機手数料
駐車場利用料金収入	0	0	0	0	0	
その他 (指定管理料充当)	0	0	0	200	△ 200	公衆電話料金
その他 (施設使用料相当額 法人負担分)	3,587,500	0	3,587,500	3,587,500	0	
その他 (提案時控除 法人負担分)	646,889	△ 238,249	408,640	408,640	0	
収入合計	19,745,640	△ 238,249	19,507,391	19,607,475	△ 100,084	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	11,258,000	0	11,258,000	11,531,079	△ 273,079	
本俸	9,701,000	0	9,701,000	7,619,150	2,081,850	本給
社会保険料	1,402,000	0	1,402,000	1,329,841	72,159	諸手当
手当計	0	0	0	2,421,143	△ 2,421,143	社会保険料
健康診断費	42,000	0	42,000	25,430	16,570	健康診断料
勤労者福祉共済掛金	0	0	0	0	0	
退職給付引当金繰入額	113,000	0	113,000	110,374	2,626	退職給付引当金繰入
その他	0	0	0	25,141	△ 25,141	その他
事務費	930,000	0	930,000	1,054,221	△ 124,221	
旅費	10,000	0	10,000	3,086	6,914	交通費
消耗品費	201,000	0	201,000	265,027	△ 64,027	消耗品費
会議謝礼金	0	0	0	216	△ 216	来客用お茶等
印刷製本費	50,000	0	50,000	19,856	30,144	封筒印刷
通信費	321,000	0	321,000	174,053	146,947	電話代、郵便料金等
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	
備品購入費	30,000	0	30,000	469,995	△ 439,995	ノートパソコン
図書購入費	0	0	0	0	0	
施設賠償責任保険	13,000	0	13,000	1,540	11,460	イベント対象経費
職員等研修費	13,000	0	13,000	1,466	11,534	研修費
振込手数料	5,000	0	5,000	0	5,000	
リース料	182,000	0	182,000	0	182,000	
手数料	5,000	0	5,000	8,076	△ 3,076	残高証明発行手数料等
地域協力費	0	0	0	0	0	
その他	100,000	0	100,000	110,906	△ 10,906	保守料、広報費等
事業費	253,000	0	253,000	289,942	△ 36,942	
運営協議会経費	42,000	0	42,000	9,043	32,957	運営協議会経費
指定管理料充当 事業	211,000	0	211,000	280,899	△ 69,899	事業費
管理費	6,404,000	0	6,404,000	5,621,720	782,280	
建築物・建築設備点検	0	0	0	0	0	
光熱水費	3,330,000	0	3,330,000	3,329,962	38	光熱水費
電気料金	1,085,000	0	1,085,000	1,090,616	△ 5,616	
ガス料金	744,000	0	744,000	802,893	△ 58,893	
水道料金	1,501,000	0	1,501,000	1,436,453	64,547	
清掃費	170,000	0	170,000	161,017	8,983	清掃費
修繕費	474,000	0	474,000	392,387	81,613	修繕費
機械設備費	0	0	0	0	0	
設備保全費	1,774,000	0	1,774,000	1,221,522	552,478	
空調衛生設備保守	410,000	0	410,000	407,080	2,920	空調衛生設備保守
消防設備保守	120,000	0	120,000	93,170	26,830	消防設備保守
電気設備保守	660,000	0	660,000	436,505	223,495	電気設備保守
害虫駆除清掃保守	39,000	0	39,000	38,224	776	害虫駆除清掃保守
駐車場設備保全費	0	0	0	0	0	
その他保全費	545,000	0	545,000	246,543	298,457	
共益費	178,000	0	178,000	177,740	260	
その他	478,000	0	478,000	121,154	356,846	共益費
公租公課	900,640	0	900,640	922,486	△ 21,846	その他
事業所税	0	0	0	0	0	
消費税	900,640	0	900,640	922,486	△ 21,846	消費税
印紙税	0	0	0	0	0	
その他 ()	0	0	0	0	0	
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	
本部分	0	0	0	0	0	
当該施設分	0	0	0	0	0	
二一対対応費	0	0	0	0	0	
支出合計	19,745,640	0	19,745,640	19,419,448	326,192	
差引	0	△ 238,249	△ 238,249	188,027	△ 426,276	

自主事業費収入	211,000	0	211,000	35,900	175,100	自主事業への参加料等
自主事業費支出	211,000	0	211,000	280,899	△ 69,899	自主事業経費
自主事業収支	0	0	0	△ 244,999	244,999	

管理許可・目的外使用許可収入	0	0	0	41,284	△ 41,284	自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0	0	0	9,600	△ 9,600	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0	0	0	31,684	△ 31,684	

平成30年度「横浜市永田地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書（特別会計）＜包括・介護予防・生活支援＞

収入の部

(単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料（包括）	29,061,000	0	29,061,000	29,061,000	0	横浜市より
指定管理料（介護予防）	151,000	0	151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料（生活支援）	5,789,000	0	5,789,000	5,789,000	0	横浜市より
利用料金収入	0	0	0	0	0	
指定管理料充当事業（包括）	0	0	0	0	0	
指定管理料充当事業（介護予防）	0	0	0	0	0	
指定管理料充当事業（生活支援）	0	0	0	0	0	
自主事業収入	0	0	0	7,500	△ 7,500	
雑入	0	0	0	41,285	△ 41,285	
印刷代	0	0	0	0	0	
自動販売機手数料	0	0	0	41,285	△ 41,285	自動販売機手数料
駐車場利用料金収入	0	0	0	0	0	
その他（指定管理充当分）	0	0	0	0	0	
その他（提案時控除 法人負担分）	4,982,000	0	4,982,000	4,982,000	0	
収入合計	39,983,000	0	39,983,000	40,031,785	△ 48,785	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	36,204,000	0	36,204,000	30,555,911	5,648,089	
本俸	31,343,000	0	31,343,000	16,597,343	14,745,657	本俸
社会保険料	4,260,000	0	4,260,000	4,066,049	193,951	社会保険料
手当計	0	0	0	9,216,550	△ 9,216,550	手当計
健康診断費	75,000	0	75,000	69,627	5,373	健康診断費
勤労者福祉共済掛金	0	0	0	0	0	勤労者福祉共済掛金
退職給付引当金繰入額	526,000	0	526,000	485,075	40,925	退職給付引当金繰入額
その他	0	0	0	121,267	△ 121,267	その他
事務費	858,000	0	858,000	775,321	82,679	
旅費	20,000	0	20,000	12,085	7,915	包括連絡会、施設見学
消耗品費	50,000	0	50,000	153,768	△ 103,768	コピー用紙等事務用品
会議随費	0	0	0	0	0	
印刷製本費	26,000	0	26,000	5,660	20,340	封筒
通信費	300,000	0	300,000	168,106	131,894	電話代、インターネット通信料等
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	
備品購入費	39,000	0	39,000	292,917	△ 253,917	ノートパソコン
図書購入費	30,000	0	30,000	0	30,000	
施設賠償責任保険	16,000	0	16,000	1,540	14,460	施設賠償責任保険
職員等研修費	50,000	0	50,000	15,962	34,038	研修参加費
振込手数料	10,000	0	10,000	0	10,000	
リース料	182,000	0	182,000	300	181,700	駐車場利用料
手数料	1,000	0	1,000	8,076	△ 7,076	残高証明発行手数料他
地域協力費	0	0	0	0	0	
その他	134,000	0	134,000	116,907	17,093	諸会費、書類等廃棄料
事業費	1,220,000	0	1,220,000	736,806	483,194	
協力医	630,000	0	630,000	231,000	399,000	協力医謝金
指定管理料充当 事業（包括）	130,000	0	130,000	0	130,000	包括事業費
指定管理料充当 事業（介護予防）	151,000	0	151,000	152,972	△ 1,972	介護予防事業費
指定管理料充当 事業（生活支援）	309,000	0	309,000	352,834	△ 43,834	生活支援体制整備事業費
管理費	1,701,000	0	1,701,000	1,436,438	264,562	
建築物・建築設備点検	0	0	0	0	0	
光熱水費	832,000	0	832,000	885,179	△ 53,179	光熱水費
電気料金	262,000	0	262,000	289,910	△ 27,910	
ガス料金	198,000	0	198,000	213,427	△ 15,427	
水道料金	372,000	0	372,000	381,842	△ 9,842	
清掃費	330,000	0	330,000	42,801	287,199	清掃費
修繕費	126,000	0	126,000	104,305	21,695	修繕費
機械警備費	0	0	0	0	0	
設備保全費	332,000	0	332,000	324,701	7,299	
空調衛生設備保守	110,000	0	110,000	108,210	1,790	空調衛生設備保守
消防設備保守	25,000	0	25,000	24,766	234	消防設備保守
電気設備保守	120,000	0	120,000	116,030	3,970	電気設備保守
害虫駆除清掃保守	11,000	0	11,000	10,160	840	害虫駆除清掃保守
駐車場設備保全費	0	0	0	0	0	
その他保全費	66,000	0	66,000	65,535	465	設備総合巡視点検等
共益費	48,000	0	48,000	47,246	754	植栽管理等
その他	33,000	0	33,000	32,206	794	会場清掃等
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税	0	0	0	0	0	
消費税	0	0	0	0	0	
印紙税	0	0	0	0	0	
その他（ ）	0	0	0	0	0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	0	0	0	0	0	
本部分	0	0	0	0	0	
当施設設分	0	0	0	0	0	
三三対応費	0	0	0	0	0	
支出合計	39,983,000	0	39,983,000	33,608,781	6,374,219	
差引	0	0	0	6,423,004	△ 6,423,004	

自主事業費収入	590,000	0	590,000	7,500	582,500	自主事業への参加料等
自主事業費支出	590,000	0	590,000	505,806	84,194	自主事業経費
自主事業収支	0	0	0	△ 498,306	498,306	

管理許可・目的外使用許可収入	0	0	0	41,285	△ 41,285	自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0	0	0	9,600	△ 9,600	使用料（横浜市への支払等）
管理許可・目的外使用許可収支	0	0	0	31,685	△ 31,685	

平成30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

施設名:横浜市永田地域ケアプラザ地域ケアプラサ

平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位:千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護			予防通所介護・第1号通所介護		
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引
収入	介護保険収入	6,062	6,450	-388	8,171	10,977	-2,806	75,374	71,282	4,092	6,090	5,348	742
	その他	9,221	8,222	999	193	207	-14	18,345	19,485	-1,140	1,725	1,451	274
	介護予防ケアマネジメント費	9,221	8,222	999	0	0	0			0	0	0	0
	利用者負担金収入	0	0	0	0	0	0	14,485	15,558	-1,073	1,725	1,451	274
	受託収入	0	0	0	193	207	-14			0	0	0	0
	事業活動外収入	0	0	0	0	0	0	272	339	-67	0	0	0
	施設使用料相当額	0	0	0	0	0	0	3,588	3,588	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0
	収入合計(A)	15,283	14,672	611	8,364	11,184	-2,820	93,719	90,767	2,952	7,815	6,799	1,016
	支出	人件費	0		0	15,897	16,280	-383	67,929	64,492	3,437		
事務費		0		0	1,460	1,630	-170	2,903	2,872	31			0
事業費		0		0	17	48	-31	8,990	8,663	327			0
管理費		0		0		11	-11	7,898	7,820	78			0
その他		11,535	11,179	356	0	0	0	4,154	4,149	5	0	0	0
利用者負担軽減額		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消費税		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護予防プラン委託料		4,380	4,850	-470	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護予防ケアマネジメント費		7,155	6,329	826	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業活動外支出		0	0	0	0	0	0	266	261	5	0	0	0
固定資産	0	0	0	0	0	0	300	300	0	0	0	0	
施設使用料相当額	0	0	0	0	0	0	3,588	3,588	0	0	0	0	
支出合計(B)	11,535	11,179	356	17,374	17,969	-595	91,874	87,996	3,878	0	0	0	
収支 (A)-(B)	3,748	3,493	255	-9,010	-6,785	-2,225	1,845	2,771	-926	7,815	6,799	1,016	

永田地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
永田歌声広場 (地域包括)	実施目的：地域と繋がらない高齢者が参加できる場所を地域とともに作った。 実施内容：介護予防（ロコモ予防体操、口腔体操、栄養の知識）と懐かしい曲を合唱する活動を行った。運営は地域ボランティアが行い、活動が継続できるよう助言アドバイスを行った。	実施回数：12回 第1, 3火曜日午前10時から11時30分 場所：永田町上第1, 2町内会館

事業名	目的・内容	実施時期・回数
山王台 脳トレクラブ (地域包括)	実施目的：認知症予防、近隣者の交流の場を目指して軽運動を行った。 主催は地域住民が行い、活動継続できるよう助言アドバイスを行った。 実施内容：コグニサイズ、ウォーキング等	支援回数：11回 第2, 4金午前10時から10時45分 場所；永田山王台の個人宅駐車場

事業名	目的・内容	実施時期・回数
南永田脳トレ ウォーキング	実施目的：定期的な脳トレウォーキングを行うことで、認知症予防と近隣者同士の交流の場を担った。平成29年5月から開始、虚弱になった方が気軽に参加できる活動、近隣者と交流が図れること、認知症予防が目的として活動した。 実施内容：個人宅玄関周辺で脳トレウォーキングを月2回で実施(雨天中止)自治会組織とは関係なく個人的な活動スタンスで行った。	実施回数：13回 実施時期：第2,4水曜日、午前

事業名	目的・内容	実施時期・回数
デイサービス なごみ	実施目的：介護保険で非該当の方で、日中の居場所が少ない方の居場所として機能させ心身ともに健やかになって欲しいため活動を行った 実施内容：高齢者の介護予防・自立支援。65歳以上で歩いてケアプラザまで来られる方。要介護認定がされていない方を対象に第2・4火曜日に実施。	実施回数：22回 実施時期：第1,3火曜日、午後1時半～3時半

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育てサロン 「たんぽぽ」	実施目的：子育て支援 実施内容：未就園児とその保護者を対象にしたサロン。 実施時期：毎月第1木曜日、第4水曜日 ボランティアが子供達を見守り、自由に遊べるスペースを提供。また、概ね月に1度、45分程度のお楽しみタイムを設けた。お楽しみタイムとは、水遊びやクリスマス会など季節に合った遊びを楽しむ。近隣の永田保育園やさくらザウルスから講師を呼んで、講座を開催した。	実施回数：22回 実施時期：第1木曜日、第4水曜日 午前10時～12時

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
永田囲碁将棋クラブ	実施目的：地域住民の交流 実施内容：大人向けの囲碁将棋クラブ。定年後の男性の居場所が少ないので、囲碁将棋を通すことで、男性の居場所作りとして機能させ今後の福祉保健活動へと発展させた。	実施回数：24回 実施時期：月2回、毎月第2,3土曜日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
親子料理教室	実施目的：食育 実施内容：未就学児の親子を対象に料理の楽しみを体験し、食の大切さを学んだ。	実施回数：2回 実施時期：6月30日、11月17日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
永田みなみ台地区見守り隊	実施目的：永田みなみ台地区で高齢の方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう見守る活動を支援した。 実施内容：見守り隊運営委員会や定例会に参加し、ニーズの把握や必要に応じ支えあい活動への同行訪問を行った。定例会には地域包括職員も参加し、介護保険制度の情報提供を行った。	実施回数：13回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
お楽しみ講座	実施目的：誰もが気軽に参加できる講座を行う事で、普段ケアプラザを利用していない方に、ケアプラザを知ってもらう機会とした。 実施内容：コーヒー講座、手話付きチーズタルト講座、フラダンス講座、スマホ講座	実施回数：4回 実施時期：6月16日、6月20日、8月3日、2月1日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ボランティア交流会	実施目的：ケアプラザで活動するボランティアの交流の場作り。 実施内容：活動しているボランティアとの意見交換会。	実施回数：2回 実施時期：3月2日、3月27日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
障がい児余暇支援事業「スマイル」	実施目的：知的障害がある中高生の居場所作り。 対象者：南区に在住の知的障害がある中高生。活動内容：子供達がケアプラザでゲームや絵画をして安心して過ごせる時間を過ごす。平成27年度からは、地域のお祭りに参加したり、ボウリング場へ出かけるなどをして、外出する機会を増やしている。	実施回数：2回 実施時期：8月26日、12月25日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
障がい児者支援企画「バオバブ」	実施目的：障害児の余暇支援活動。 対象者：南区に在住の知的に障害がある小学生と中学1年生。 活動内容：学校や家族以外での活動の場として、さまざまな人との出会いの場を作った。	実施回数：0回 実施時期：申し込みがなかったため未実施

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
育児講座	実施目的：地域の子育て支援 実施内容：健康相談、離乳食、他	実施回数：1回 実施時期：9月6日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座（永田地区センター共催事業）	実施目的：北永田地区社協の協力を得て、地域住民に広く認知症を知って頂くための機会としての講座を開催。 実施内容：地域の商店にも声をかけて、講座への出席の働きかけを行った上での開催。認知症サポーター養成講座に合わせて、地区社協の活動についてを区社協からPR、地域包括支援センターについて、あんしんネットワークについての説明を行った。	実施回数：1回 実施時期：8月30日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座（永田台小学校）	実施目的：永田台小学校5年生の生徒に認知症について正しく知り、自分たちの出来ることを考えてもらう。 実施内容：永田台小学校にてキャラバンメイト山本氏、佐藤氏、浅原氏による講座を行い、地域ケアプラザについて説明する。午後の授業では生徒とともに振り返りを行った。	実施回数：1回 実施時期：11月5日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
認知症キッズサポーター養成講座（永田小学校）	実施目的：地域包括支援センターの相談業務について紹介し、包括支援センターについて知って頂く。 実施内容：永田小学校にてキャラバンメイトによる講座をおこなった。小学生向けにクイズなどを導入しわかりやすい形にした。	実施回数：1回 実施時期：2月18日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症ズサポーター養成講座（永田中学校）	実施目的：地域包括支援センターの相談業務について紹介し、包括支援センターについて知って頂く。 実施内容：永田中学校にてキャラバンメイトによる講座をおこなった。中学生向けに寸劇やクイズなどを導入しわかりやすい形にした。	実施回数：1回 実施時期：3月4日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
永田deはぐくむわくわく教室	実施目的：永田エリアの乳幼児の養育者が地域の中に知り合いを増やし、子育てを支えあえる仲間作りの機会にする。また、そのつながりを基に地域への愛着を深め、地域活動の担い手へと成長することを期待する。	実施回数：6回 実施時期：11月2日、11月9日、11月10日、11月30日、12月7日、12月14日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子どもの見守りボランティア講座	実施目的：地域では、子育てサロンの担い手の育成が急務となっていることから、ボランティア講座を実施することによって、新たな担い手の発掘と育成を狙う。	実施回数：2回 実施時期：10月12日、10月26日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
第15回永田支えあい祭り	実施目的：地域の活性化と異世代交流のネットワークづくりのため 実施内容：地域で活動している福祉保健活動団体をPRする場として、ブース出店（食べ物、手芸、健康チェック、おもちゃ病院など）、ブラスバンド演奏・キッズダンス・認知症サポーター養成講座などをおこなった。祭りの運営については、実行委員会形式ですすめ、地域を主体に行なった。	実施回数：1回 実施時期：4月15日

平成30年度 自主事業収支予算書

永田地域ケアプラザ

【地域交流活動事業】

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
永田支えあい祭り	①地域住民	54,551	地活	54,551	0	0	0	54,551	0
	②800名		包括						
	③無料		生活						
子育てサロンたんぽぽ	①未就園児とその保護者	6,673	地活	6,673	0	0	0	6,673	0
	②300名		包括						
	③無料		生活						
永田囲碁・将棋クラブ	①地域住民	0	地活	0	0	0	0	0	0
	②150名		包括						
	③無料		生活						
親子料理教室	①地域住民	5,900	地活	1,550	4,350	0	0	5,900	0
	②15組		包括						
	③300円		生活						
お楽しみ講座	①地域住民	40,016	地活	17,916	22,100	0	20,000	20,016	0
	②50組		包括						
	③200～1000円		生活						
育児講座 年2回	①地域住民	0	地活	0	0	0	0	0	0
	②15組		包括						
	③無料		生活						
障がい児支援企画「バオ バブ」	①障がい児	0	地活	0	0	0	0	0	0
	②5組程度		包括						
	③200円		生活						
障がい児者支援企画「カ フェ・スマイル」(新規事 業)	①障害を持つ方	6,827	地活	1,527	5,300	0	0	6,827	0
	②5名		包括						
	③100円		生活						
ボランティア交流会 年2回	①ケアプラで活動しているボランティ	7,408	地活	7,408	0	0	0	7,408	0
	②活動しているボランティア		包括						
	③無料		生活						
永田地域支えあいネット ワーク	①地域住民	0	地活	0	0	0	0	0	0
	②連絡会構成員		包括						
	③なし		生活						
味噌づくり講座	①地域住民	0	地活	0	0	0	0	0	0
	②10名		包括						
	③1300円		生活						
子どもの見守りボラン ティア講座	①地域住民	0	地活	0	0	0	0	0	0
	②20名		包括						
	③無料		生活						
永田deはぐくむ わくわく 教室	①地域住民	27,691	地活	27,691	0	0	10,000	17,691	0
	②30名		包括						
	③無料		生活						
貸館利用団体交流会	①貸館利用団体	0	地活	0	0	0	0	0	0
	②30名		包括						
	③無料		生活						
子ども青少年向け講座	①地域住民	0	地活	0	0	0	0	0	0
	②30名		包括						
	③無料		生活						
外国につながるのある方 交流事業	①地域住民	0	地活	0	0	0	0	0	0
	②20名		包括						
	③200円		生活						

平成30年度 自主事業収支予算書

年末大掃除大会	①貸館利用団体	2,516	地活	2,516	0	0	0	2,516	0
	②30名		包括						
	③無料		生活						
永田ピエンナーレ国際児童画展巡回展(新規事業)	①地域住民	5,354	地活	5,354	0	0	0	5,354	0
	②500名		包括						
	③無料		生活						
地域のお祭り	①地域住民	267	地活	0	0	267	0	267	0
	②500名		包括						
	③無料		生活						
永田通信	①地域住民	123,696	地活	123,696	0	0	0	123,696	0
	②多数		包括						
	③無料		生活						
		280,899		248,882	31,750	267	30,000	127,203	0

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度 自主事業収支予算書

永田地域ケアプラザ

【地域包括支援センター運営事業】

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
地域ケア会議	地域、福祉保健関係者	0	地活	0	0	0	0	0	
	10名程度		包括						0
	0円		生活						
出張相談会・出前講座	地域	0	地活	0	0	0	0	0	
	10名程度		包括						0
	0円		生活						
民生委員とケアマネ交流会	民生委員、ケアマネジャー	0	地活	0	0	0	0	0	
	20名程度		包括						0
	0円		生活						
ケアマネジャー向け研修	ケアマネジャー	0	地活	0	0	0	0	0	
	20名程度		包括						0
	0円		生活						
介護者サロン	地域	0	地活	0	0	0	0	0	
	10名程度		包括						0
	0円		生活						
		0		0	0	0	0	0	

事業ごとに別紙に記載してください。